



春になりました。フィラリア、ノミ、マダニ、狂犬病で、会員の皆さまには毎日忙しいことと拝察いたします。2015年6月7日(日)午後1～5時まで渋谷のインターズーさんにて無料セミナー付きの総会を開催します。今回は奈良の中山正成先生に「楽しいお役立ちの臨床のアイデア」の講演をしていただく予定です。終了後、時間が大丈夫な方は中山正成先生を囲んでのひとときを考えています。ご多忙とは存知しますが参加していただけると、とても嬉しいです。

動物医療発明研究会 事務局 清水 宏子

雑感



動物医療発明研究会会報への投稿を清水先生に懲瀆されたのに応えて駄文を記して責めを果たすことをお許し頂きたい。

発明と聞くと世の中に新しいものを考案し、新奇で有益なものを作出することされている。新しい技術、方法をはじめ器具機材、機会装置などの登場を想起する。一方で、物事の意義や道理を明確にして納得することでもある。このように発明は、新しいものを作成したり、新しい仕組みを構築ことと感じられるが、初めて明らかにすることは何も世界的観点でのことばかりではなく、個人的な範疇での問題としても考えても良いように思われる。

臨床獣医師として私的に発明を捉えて考えた場合、日々進歩する診療の現場にあって日常の研鑽は発明の集積に他ならないと思われる。すなわち、自己改革であり、自己を進歩発展させる意味と言える。遭遇した症例の経験を踏まえて、教科書に記載されている内容の背後にある事実を理解することが可能になる。先人の体験が初めて貴重な教えとなって真実を把握することになるのである。所詮、未経験のことは実感し難いものである。それは以下の権中納言敦忠の詠んだ恋の和歌に

あるように「逢ひ見ての 後の心に くらぶれば 昔はものを おもはざりけり」とあることから推測される。

したがって、専門書の一言一句を味読し、吟味する必要がある。

最近、各種手引書(マニュアル類)や指針(ガイドライン類)が重視され、これらに従う傾向にある。当然それなりの利点はあるが、徒に追従するのには問題も有り、反って失敗する危険もあるのではないかと危惧される。自分自身の診療方針や方策を確立しなくておこなってはならない。指針に準じて治療すれば、例え訴えられることがあっても裁判で負けることはないといったことを仄聞すると嘆かわしい。獣医師たる者、獣医師としての矜持をもって診療に従事しなければならない。東京大学医学部内科(現:第3内科)の初代教授である青山胤通は高貴な方に診察を乞われたとき、近づくこともできず、手首に巻き付けた糸の先の動きで脈診するように言われた。その時、「胤通卑しかれども、医学とはさほど卑しきものにあらず」と述べて退席したという話を聞いたことがる。獣医学も崇高なる学問であるから、これを修学した獣医師は胸を張って診療に従事できるように精進する責務がある。それには、日々の発見、発明を追いつめることが重要なのである。

長谷川 篤彦

アドバイス・アイデアの宝箱



ウサギに優しい診療のアイデア
～診療効率アップ～

横浜市・清水動物病院 清水 宏子先生

【今、増えているウサギに注目】

開業時からエキソチックを診て36年になりました。飼育率、ネコは横ばい、犬は下がっているペット業界ですが、飼いたい動物No.1は今ウサギです。登録の義務もワクチンもないので、どのくらい飼っているのかわからず、またどこに連れていけば良いのか迷っている隠れウサギも多いです。ウサギもウサギの飼い主さんも苦手なんて言わないで、愉しく診察するアイデアをピックアップしてお届けします。

【予約制で、ゆっくりじっくり】

病院を予約制にするのが無理ならウサギだけ予約制にし、電話を入れてから来ていただくと安心です。ウサギが苦手な吠える犬や興奮して騒ぐネコと重ならないようにできるので、ゆっくりじっくり落ち着いて診れます。優しく見えて気が強く、穏やかそうで順位付けをし、自分の意志はハッキリしているのに、デリケートだからです。(→予約表、差し上げます)

【ウサギの飼い主さんの特徴】

イヌやネコの飼い主さんと比べると、ちょっと違う傾向があります。熱心な勉強家でインターネットで何でも良く調べていらっしゃるようです。ネットワークの発達でブログ、フェイスブック、ラインなどで仲間との情報交換をし、動物病院をまめにチェックして訪れます。神経が細やかで、デリケート・神経質・心配症の方も多いです。気に入ってもらえるとブログコミで広がります。

【よくある飼い主さんの声】

◎看板や電話帳にウサギと書いてあるのに、見ただけでちゃんと診てくれなかった。◎触り方や診察の仕方がぎこちなく、ウサギが好きそうに思えなかった。◎爪を切りに行っただけなのに、台から飛び降りてケガをしたので、病院に二度と行きたくない!◎レントゲン検査であれば、両方の後肢がだらりとして歩けなくなった。◎先生に「しっかり押さえて」と言われ押さえたら、腰が立たなくなった。◎「押さえ方が悪い」と言われトラウマになっている。

【必ず、アニマルサポートバックで安心・安全】



一見、座布団カバーのようですが、48cmx48cm。2つのロック機能付きスライダーのあるファスナーが付いている袋で綿100%、重さ100g。体重測定にも便利です。この袋に入ると、安心・安全に診察できます。おとなしい子ですと言われても必ず100%袋に入れて診察しています。

[illegible]

【飼い主さんにマスターしてもらうこと】

アニマルサポートバッグを使って、さわったり、だっこしたり、耳・歯・爪・おしりのチェックができて、スポイトトレーニングをマスターしてもら

います。ツボとコツを実践しますネ。(→スポイト差し上げます)

【ワクチンの代わりにエンセファリトゾーンのチェックを】

イヌやネコにはワクチンがありますが、ウサギにはありません。その費用の代わりにエンセファリトゾーン（脳炎微胞子虫）の抗体価を調べると健康管理に役立つことをお伝えします。採血は、27G 1/2 Sで、消毒は温めた消毒用アルコールで、部位は、前肢橈側皮静脈・後肢サフェナ静脈・耳介動脈で行います。1cc弱採って血清を分離し、モノリスさんに出します。約2日で抗体価が出てきます。（→エンセファリトゾーンのわかりやすいプリントと陽性の結果が出てきたときのプリント差し上げます）

【よくある病気の説明とコツ】

◎不正咬合:まめに来院。牧草たっぷり、側視鏡付きまたはデンタル耳鏡で理解納得。◎エンセファリトゾーン:30%くらいのウサギが持っています。◎スナッフル:すっきりしないときは培養します。◎皮膚炎:ノミダニ、ツメタニ、湿性皮膚炎。◎目の病気:意外と多い角膜炎傷はフルオル試験紙でチェック。◎ウサギ梅毒:位相差顕微鏡でチェック。ミノサイクリンで治療。(→オリジナルプリントをどうぞ)

【飼い主さん参加型で治療】

飼い主さんを有能な看護師さんに育てて参加型治療にすると人手が少なくても安心で次の利点があります。①説明しながらの治療のため飼い主さんが病気を理解する。②獣医師や動物看護師とひとつの仕事を協力することで達成感ややりがいになり治療に積極的になる。③費用がかかってもみんなの苦勞を目の当たりにしているので会計がスムーズ。④忙しいときはスタッフが別の仕事につける。

【常備薬があると安心】

ウサギは急に食べなくなったり、経過が早い動物です。飼い主さんが常備薬を数日分持っていると安心です。薬は、お気に入りの薬を調合して作ると無駄がなく経済的です。ウサギでよく使うものナウゼリン、ペリアクチン、ミヤBM、ビクタス、パソラミンなどの容量と与え方をご紹介します。すべて1包は1日分にし、2回に分けて飲ませます。初診時に、スポイトトレーニング。先丸ジャパラスポイトで100%ジュースなどをスポイトで飲めるようマスターしてもらいます。(→スポイト先着10名にプレゼント)

【日頃のケアでまめに来院】

爪・足・おしり・臭腺・鼻・目・耳・おしりの毛など、春夏秋冬、3ヶ月に1回 リコールハガキで来ていただきます。ザイアンスの法則で、会えば会うほど、ウサギとも飼い主さんとも仲良くなれます。

(→春夏秋冬プリント差し上げます)

【ウサギを増やすアイデア】

①院内にウサギプロジェクトチームを作る。②飼い主さん向けウサギ塾を開催する。③ウサギのサンプルフードも置く。④待合室にウサギ関連の本も並べる。⑤自分もスタッフもウサギを飼ってみる。⑥院内にウサギルームを作り、まだ飼っていない人がウサギに触れ合う機会を設ける。

【ペットの2020年問題】

ペットの飼育数の減少傾向で動物病院やペットショップの経営が難しくなるところが出てくると言われています。しかし、どんな時代が来ても同業者や後継者が、獣医師や動物看護師になってよかったと思えるように自分たちで様々なアイデアを出しましょう。過去の枠にとらわれることなく異業種の皆さんとの交流も積極的に！私の夢は、誰もいなくなった杉並の実家に『小さなふれあいコーナー』などを作り、目の前の公園で、お散歩のコツやポイントを交えながら病気の早期発見をさり気なくお伝えすることが出来るようになれば、とっても良いな…

そんな週末のひと味違った過ごし方を考えています。

*この原稿は、2015年2月22日(日) 13:15~15:00
パシフィコ横浜・第6会場にて開催された
第11回「日本獣医内科学アカデミー学術大会」で
清水宏子先生が講演されものです。





脊椎・脊髄 疾患的 回想録＊2

中山 正成先生



3. 片側椎弓切除術

Dr. Sue Beileyは、女性らしく非常に丁寧な片側椎弓切除術(Hemilaminectomy)を見せてくれた。片側椎弓切除術、ベントラスロットのウェットラボを行うので、高速回転するエアードリルが必要とのことだった。藤井寺動物病院の是枝哲世先生が用意してくれた。26年前のことで、当時150万円するとのことであった。手術を見せていただいて、それまで診断、治療(手術)に苦慮していたのが正に「目からうろこ」、すっきりとした。その後、三重県伊賀の南穀生先生のお父さん先生が、工作用のエアードリルを名古屋で見つけられて、紹介していただいた。値段は十分の一。椎間板ヘルニアの診断は画期的に確実になり、どんどん片側椎弓切除術を行っていった。その後4-5年間エアードリルを使っていたが、ロンジュールのみで椎弓を開創するほうが、危険も少なく、すばやくできるようになった。



左より 是枝哲世先生、Dr. Sue Beiley、Dr. Joe P. Morgan、私と娘
中山宅にて(1981/3/23)

1988年Dr. LeCouterが来日され、脊椎・脊髄疾患の包括的な講義を行った。神経学的検査、探査的X線検査、脊髄造影検査、手術法、リハビリテーションなど、先端的な内容であった。彼を奈良観光に誘い、症例の相談、日頃の疑問や、詳細な手術法を聞くことができた。

このころまで、私は、約100例の脊椎・脊髄疾患を診察・治療を行っていた(第40回獣医麻酔外科学会、1989、第108回日本獣医学会1989)。

椎間板ヘルニアの紹介症例が増えるにつけて面白い現象が出てきた。寒い日、主治医から椎間板ヘルニアなので、奈良の中山で手術を受けてきなさい、と紹介を受けて来た、7歳のダックスフント。体重20kg(当時のダックスフントはミニチュアではなかった)じっと固まって動けない。椎間板ヘルニアではないのでは?と思い体温を測ると27.0℃、すぐにヒーター、ドライヤーで体を温め、温めた輸液を行ったところ、1時間後には普通に帰ってきた。血液検査などその他の検査で診断は「甲状腺機能低下症」であった。現在の研究では、甲状腺機能低下症の70%は何らかの神経症状を持つと言われている。

4. 脊髄造影検査で多方向から検査

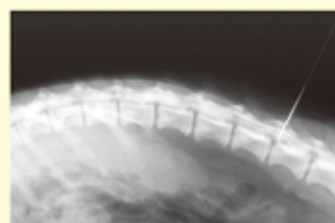
脊髄造影検査を行っても読影・診断に苦慮する症例が現れてきた。通常VD方向とラテラル方向の2方向からのX線撮影であったのを、より詳しく診断するために左右斜位撮影を

思いついた。疑わしい部位は4方向から撮影してさらに診断が容易になってきた。つまり、CTを使用せず脊髄を立体的に見ることができるようになった。多方向からX線撮影した時非常に多くの枚数のX線フィルムが現像されてくるので体位が解らなくなってしまう。そこで体位を一目でわかるようにX線フィルムボディマーカを考え付き特許を取った。

しかし、論文にするのには長い年月がかかった。(椎間板ヘルニアにおいて脊髄造影検査で多方向から検査、JVMS 2004)

5. 脊髄空洞症

ミニチュア・ダックスフントの子犬が神経症状を呈して上診したとき、脊髄造影検査で脊髄内に造影剤が貯留しているような画像が撮れて診断できず途方にくれた。当時、いつも困った症例の相談に乗って頂いていた、是枝哲世先生にお見せしたら、最初は解らないと仰ったが、次の日「脊髄空洞症:Syringomyelia」ではないかと教えていただいた。その後カリフォルニア大学デーヴィス校を訪ね、放射線、神経専門医にX線写真を診ていただき「脊髄空洞症」と診断していただいた。帰国して知り合いの人の外科病院にCT装置が入ったことを聞きつけ、すぐに犬をCT検査していただいた。日本で初めてCTによる犬の脊髄空洞症を生前診断した結果を獣医画像診断学会で発表した(獣医画像診断学会、札幌、1987、獣医画像診断No.1、1987、第8回国際獣医放射線学会1988)。



脊髄空洞症の脊髄造影検査(1986)



死後剖検・脊髄内に空洞が見られる

4例目の脊髄空洞症に出会ったとき、山口大学にMRIが設置されたことを聞いて早速、赴任されたばかりの故竹内啓教授に連絡をして、撮像して頂くことになった。設置されたばかりなので、MRIの画像はなかなか構築できず放射線技師の方に大変苦勞をかけてしまった。この時、山口大学名誉教授の徳力幹彦先生、同じく中間實徳先生、田浦保穂教授、中市統三教授、宇根智助教などの先生方と親しく語り合う幸運に恵まれた(1993)。

その後、大阪府下の人の病院でMRI検査をお願いするようになった。そこでは1.5テスラが設置されていたが、2台目に3.0テスラの装置が入り、撮像時間の短縮と、非常に繊細で綺麗な画像が得られるようになった。また、大阪府立大学の大橋文人教授、伊賀市の南穀生先生にMRI検査でお世話になっている。

(つづく)

ニャンコのつぶやき

私このごろ憂なのよ
二月三月 弥生の頃は
花粉まいるこの頃は
鼻水、くしゃみ、鼻づまり
トナリのタマには見せたくない
暑い夏の日本影の下で
ウトウトと
時計廻りに移動して
夕日になる頃
テリトリを確かめる



ボー 4

佐藤大樹病院(三郷市)佐藤 剛作

ワンコのつぶやき

足のうら
なんだかおいしい
味がする
なめてもなめても
あきないヨ
耳ダニだって
あの子と遊んでからだけど
痒くても痒くても
あいたいんだ
明日も会えるかな



動物医療発明研究会『公開セミナー』開催！

今年も『SAMI総会 & 無料セミナー』を開催いたします。
2015年6月7日(日)、昨年と同じインターズー会議室です。
出欠のお返事は、同封のハガキにて5月15日(金)までにお知らせください。

*会費節約のため往復ハガキのご案内はとりやめ、
このニュースレター紙上のご案内とさせていただきます。
どうぞ悪しからずご了承ください。

会場まで お気をつけてお越しください



「渋谷」駅下車徒歩約8分

「表参道」駅下車徒歩約8分 B4出口

住所/東京都渋谷区渋谷1丁目3-9 東海堂渋谷ビル7F

会費の値上げについて SAMI事務局

長年、¥3,000ですえおいてきた年会費ですが消費税や
メール便の廃止などから、会長、監事、会計監査と相談
の結果、今年度より¥4,000(2015年4月~2016年3月)と
させていただくことになりましたので、ご了承ください。

年会費：¥4,000(2015年4月~2016年3月分)

同封の振込用紙にて5月15日(金)までに、お願いいたします。

2015年7月20日(日)帯広での講演決定



「うさフェス2015」にて 2015.3.29

獣医師会より依頼があり帯広にて講演をさ
せていただくこととなりました。発明研究会
の会員が一人でも増やせたら良いなと思っ
ております。北海道にお友達がいらしたら
どうぞご案内ください。清水 邦一 & 宏子

「動物医療発明研究会」

総会 & 無料セミナーのご案内

皆さま、いかがお過ごしでいらっしゃいますか。

お役立ちセミナーと総会を開催いたします。

ぜひご参加いただけたらと思います。

お手数ですが、出欠についてのご連絡を同封の
ハガキにて5月15日までにお願い申し上げます。

日時：平成27年6月7日(日) 13:00~16:00

場所：(株)インターズー 担当：清水 070-5557-2526

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-3-9 東海堂渋谷ビル7F

総会内容

26年度 事業報告 決算報告

27年度 事業計画案 予算案

お役立ちセミナー(無料)

● 中山 正成先生(奈良・中山獣医科病院)

「少しの工夫で臨床力アップ」

● 清水 邦一・宏子先生(横浜・清水動物病院)

「ウサギに優しい診療と工夫」



▲ 今日から役立つアイデアや若い先生にもたつめる情報満載で
お届けします。皆さまと楽しく過ごせたらとても嬉しいです。

日曜日は
ふたりして
のんびり
猫時間で
すごす
藍生



清水宏子の五行歌

新入会員

今成 貴生さん(中村動物病院勤務医) 埼玉県加須市 / みなさまの充実したペットライフのために

動物医療発明研究会のホームページ。会員病院の登録もできます。

hp@ispecial.co.jp



会員の病院・施設名、郵便番号
住所、TEL&FAXとホームの
ページアドレスを掲載します。
ご希望の場合は、「SAMI-HP
掲載希望」と明記して、データを
メールにて、上記アドレスまで
お送りください。

(運営受託：株式会社アイ・スペシャル)



動物医療発明研究会事務局では
お役立ちのアイデアやエピソードを
随時募集しています。メール、FAX、
郵便でも受け付けていますので
お気軽にお寄せください。

SAMI NEWS 40号 発行日：2015年4月20日

発行所：動物医療発明研究会事務局

発行人：会長 清水 邦一 / 編集人 野間 忠博

事務局：230-0061 横浜市鶴見区佃野町3-3 清水動物病院内

メール：sah@vet.ne.jp

FAX：045-583-3594 (電話：045-583-3738)